

日本ソーシャルワーク学会第33回大会に参加

高見 宇造

7月9、10日の両日、標記大会が京都の同志社大学を会場に開催され、筆者も参加した。この学会は我が国の社会福祉を理論と実践の両面から考えようとするもので、福祉教育に携わる教員、研究者や社会福祉士、精神保健福祉士また施設関係者など大勢の関係者が集まり開催された。

今回の大会テーマは、「ソーシャルワークの『グローバル』な展開をめざして—ますます世界的に、あくまで日本的に—」というもの。このテーマは2014年にソーシャルワークの国際定義が改訂されたことによっている。研究者だけでなく実践や教育の現場においても、ソーシャルワークのグローバルな展開が求められるようになってきている。その一方で、国によって異なる社会状況の中で、それぞれの地域に根ざしたローカルな展開の重要性も指摘されている。

ソーシャルワーク専門職のグローバル定義とは次の通りである。「ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと、解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける」というもの。定義にいう「地域・民族固有の知」が意味するもの、それが即ちグローバルな視点ということになる。大会シンポジウムでは地域社会に根ざした固有の共助システム（地域住民の助け合い）の積極的見直し等が取り上げられ、これからのソーシャルワークのあり方に向けて活発な意見交換がなされた。奇しくも福祉実践とグローバルの視点について考えさせられ、筆者にとって貴重な学びの場となった。

第293回研究報告会（6月22日）

The Body and the Trial: Problems of Ordeal in Hindu Dharmśāstras (身体と審理：ヒンドゥー法典における神判の諸問題)

Pochi Huang (黄柏棋)

Graduate Institute of Religious Studies National Chengchi University (台湾国立政治大学宗教学研究)

It is generally assumed that Indian concept of the body is basically connected with religious practices as witnessed

by yoga and other bodily cultivation related to monastic discipline. This paper provides another perspective on Hindu ideas of judicial body. Using Dharmśāstras as examples, it investigates problems of ordeal (divya) as explicated in these sacred texts. As Xuanzang (玄奘, 602-664) is most likely to be the first foreign witness of this Indian judicial trial, this paper compares what is depicted in his *Datang Xiyuji* 《大唐西域記》 with that of Dharmśāstras to pinpoint how divya is properly conducted in the medieval court of India.

This presentation then endeavors to make a comparative study of ordeal as *judicium Dei*, especially ordeal by fire and water also existed in medieval Europe. This may not be a sheer coincidence but has much to do with some distinguishing features of Indo-European society. The cultural context of Indo-European ordeal is further explored. Finally, socio-religious background to ordeal in medieval Europe and India is examined to make sense of this shared yet “disreputable” practice.

『グローバル天理』
合本のご案内

2010年から2015年に出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは各1年分（12号分）を1冊にまとめ、簡易製本したものです（頒価は200円）。

合本はご注文を受けて製本しておりますので、研究所事務室にお越しの際は、**必ず事前に電話、FAX、もしくはEメールでご連絡ください。**なお、郵送による頒布はできかねますので、ご了承ください。

『グローバル天理』年間購読のご案内

原則的に新年度は1月号からとなっております。購読料については、送料のみの実費負担です。申し込みは、封書、FAX、メールでお願い致します（お電話での申し込みはご遠慮下さい）。毎月の希望冊数と、氏名（フリガナも）、郵便番号、住所、電話、FAX、E-Mail、職業をお知らせ下さい。申し込み受付後に振込み用紙を送付致します。切手・現金でのお支払いはご遠慮くださいますようお願い致します。振込みを確認後、発送させていただきます。

送料（ヤマト運輸メール便）

全国一律、A4（角2）厚さ1cmまで（10冊まで）80円でお届けします。

11冊以降は160円になります。

例 毎月1～10冊購読 80円×12カ月＝960円

毎月11冊～購読 160円×12カ月＝1,920円

問い合わせ先：

〒632-8510 奈良県天理市柚之内町1050

天理大学 おやさと研究所 「グローバル天理」編集部

FAX 0743-63-7255 E-Mail: oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

「出前教学講座」申し込み受付

おやさと研究所では教区、教会などの単位で「出前教学講座」の依頼をお受けしています。詳細は、担当者佐藤孝則（tasato@sta.tenri-u.ac.jp）までお問い合わせ下さい。